



Stride Ahead
100th

2021年3月期決算概要

2021年5月12日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



TERUMO

CAFOの武藤でございます。2021年3月期 期末決算の概要について説明致します。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

ハイライト

■ Q4/Q4累計実績

- 売上収益：Q4として過去最高。コロナ影響は続くも、心臓血管の需要が着実に回復。他のカンパニーは感染対策やコロナ治療に貢献する製品群が牽引し増収
- 調整後営業利益：下期に中国入札への価格対応、在庫水準適正化に向けた生産調整による売上総利益へのマイナス影響があったものの、Q4累計で一桁台の減益にまで回復。Q4は行動制限の緩和に伴い、一般管理費が想定通り進捗
- 20年度配当案を年間29円とする。配当性向：28.3%

■ 21年度業績予想

- 売上収益は9～11%の増収、調整後営業利益は7～12%の増益
- 売上収益へのコロナ影響については、変異種やワクチンの普及状況等、引き続き懸念があるものの、症例数を始めとした医療需要の回復を見込む。調整後営業利益は、販売活動が20年度水準から活発化へ転じ、新規事業への先行投資分もあるが、増益を確保

始めに、今決算のハイライトをまとめました。

通期の売上収益は、下期においても心臓血管カンパニーへの新型コロナの影響は依然として残るものの、需要回復の傾向に伴い着実な業績回復が見られました。ホスピタルと血液・細胞テクノロジーにおいては、感染対策やコロナ治療に使われた製品の貢献もあって増収となり、グループ全体の安定感に寄与しました。

直近では、新型コロナの影響が幾分か残るものの、Q4として過去最高の売上収益となりました。

調整後営業利益は、下期に入り、TIS製品における中国入札や生産調整の売上総利益へのマイナス影響があり、また行動制限の緩和を受けて費用支出が加速してきたものの、通期では売上収益の回復により、一桁台の減益までに順調に回復してきています。

こうした業績回復傾向を鑑みまして、期初の想定から1円増配し、20年度年間配当案を29円と致します。

21年度の業績予想については、売上収益9～11%の増収、調整後営業利益は7～12%の増益を見込みます。

P&L実績

■ 売上収益：Q4として過去最高。Q4累計ではわずかに減収も、心臓血管の売上が着実に回復
(心臓血管の売上増減率 Q1：▲24% Q2：▲2% Q3：▲2% Q4：+4%)

■ 調整後営業利益：下期に中国におけるPCI製品入札の影響、在庫水準適正化に向けた生産調整による売上総利益へのマイナス影響があったものの、Q4累計で一桁台の減益まで回復。Q4は行動制限の緩和に伴い、一般管理費が想定通り進捗

金額 (億円)	FY19 Q4累計	FY20 Q4累計	増減率	為替除く増減率	FY19 Q4	FY20 Q4	増減率
売上収益	6,289	6,138	-2%	-2%	1,588	1,652	4%
売上総利益	3,439	3,266	-5%	-3%	853	854	0%
(売上総利益率%)	(54.7%)	(53.2%)			(53.7%)	(51.7%)	
一般管理費	1,845	1,795	-3%	-2%	477	488	2%
(一般管理費率%)	(29.3%)	(29.2%)			(30.1%)	(29.5%)	
研究開発費	506	491	-3%	-2%	136	132	-3%
(研究開発費率%)	(8.0%)	(8.0%)			(8.6%)	(8.0%)	
その他収益費用	18	3	-	-	4	-2	-
営業利益	1,106	984	-11%	-8%	244	231	-5%
(営業利益率%)	(17.6%)	(16.0%)			(15.3%)	(14.0%)	
調整後営業利益	1,250	1,159	-7%	-4%	266	274	3%
(調整後営業利益率%)	(19.9%)	(18.9%)			(16.7%)	(16.6%)	
税引前利益	1,065	971	-9%		210	221	5%
(税引前利益率%)	(16.9%)	(15.8%)			(13.2%)	(13.4%)	
当期利益	852	773	-9%		183	187	2%
(当期利益率%)	(13.5%)	(12.6%)			(11.5%)	(11.3%)	
期中平均レート(USD/EUR)	109円/121円	106円/124円			109円/120円	106円/128円	

©TERUMO CORPORATION

4 / 28

TERUMO

20年度の通期、及びQ4単体の実績です。

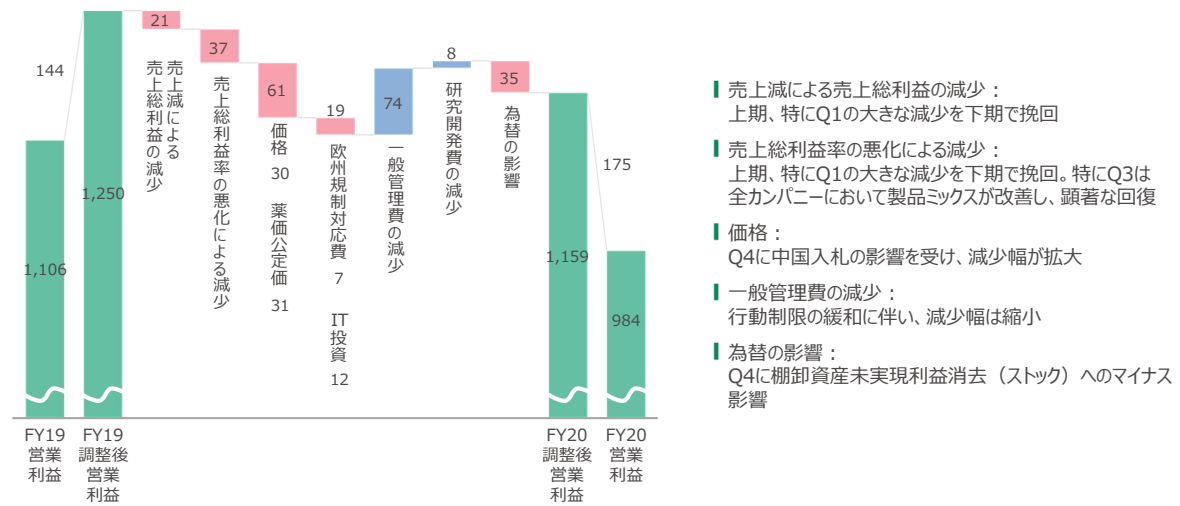
売上収益は、心臓血管の着実な回復を受け、通期で前年度比2%の減収まで戻すことができました。

調整後営業利益は、Q4に入りPCI関連製品が中国入札の影響を受けたことに加え、コロナ禍における製品の安定供給を担保するために行った在庫増を、適正レベルまで調整するべく生産調整を始めたこと等が、利益の重荷になりましたが、それでもQ4単体で増益を確保。通期では7%の減益、為替影響を除き4%の減益までに戻しました。

当期利益においても、9%の減益と、こちらも一桁台の減益まで回復が進みました。Q4単体では、心臓血管カンパニーにおいて症例数の回復が進み、3カンパニー全ての売上収益がプラス伸長となりました。その結果、グループ全体の売上収益が、Q4として過去最高となっています。

調整後営業利益増減分析（Q4累計）

（億円）



©TERUMO CORPORATION

5 / 28



通期における調整後営業利益の増減分析です。

「売上減による売上総利益の減少」について、Q1で新型コロナによる減少が底を打ち、そして下期に挽回、最終的に21億円のマイナス要因にまで縮小しました。

「売上総利益率の悪化による減少」は、心臓血管の下期での挽回に加え、下期に入り全カンパニーにおいて製品ミックスが改善したことで、減少幅が小さくなり37億円のマイナス要因となりました。

「価格下落」は、中国におけるPCI製品への入札影響がQ4にあり、30億円へとマイナス要因が拡大しました。一方で「薬価公定価」は、昨年10月の消費増税に伴う改定の影響が一巡したため、Q3から大きく変わらず31億円のマイナス要因となっています。「欧州規制対応費」、そして「IT投資」は、プロセスが順調に進んでおり、前年同期比で費用が増加、合計で19億円のマイナス要因となりました。

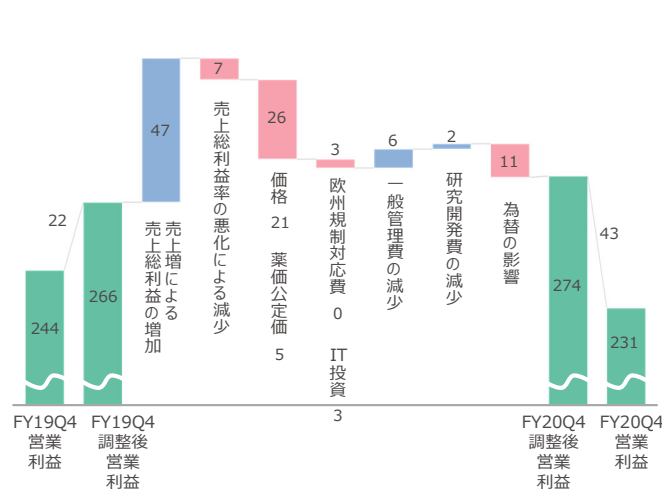
「一般管理費の減少」については、Q4において販売等の行動制限の緩和により、費用執行が進んだことで追加の減少幅は小さくなり、74億円のプラス要因となりました。

「研究開発費」においては、中長期の成長に資する投資として原則緩めず行っていますが、メリハリのある管理を実施した結果、前年度比8億円のプラス要因となりました。

「為替の影響」は、Q4末にかけてドル・ユーロともに円安に推移したことで、棚卸資産未実現利益消去の影響が大きくなり、前年同期比では18億円、フローでは17億円、合計35億円のマイナス要因となりました。

調整後営業利益増減分析（Q4）

（億円）



- 売上増による売上総利益の増加：
売上は全カンパニーがプラス伸長。前年度Q4に中国の心臓血管領域を中心に受けたコロナ影響（▲27億円）が背景
- 売上総利益率の悪化による減少：
在庫適正化に向けて予定通り実施した生産調整や、コロナ影響を受けたフィリピン工場の操業度低下が影響
- 価格：
中国において、TISのPCI製品に対する入札による新価格適用が始まり、マイナス幅が拡大
- 一般管理費の減少：
主に米州における行動制限の緩和に伴い、若干の減少に止まる
- 為替の影響：
3月末レートが円安に振れたことにより、棚卸資産未実現利益消去（ストック）へのマイナス影響がフローへのプラス影響を上回る

©TERUMO CORPORATION

6 / 28

TERUMO

こちらはQ4単体で見た、調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」については、昨年度、既に中国において顕在化していた新型コロナウイルスの影響から一巡したこともありますが、需要の回復に伴い全カンパニーがプラス伸長に転じたことで、47億円のプラス要因となりました。

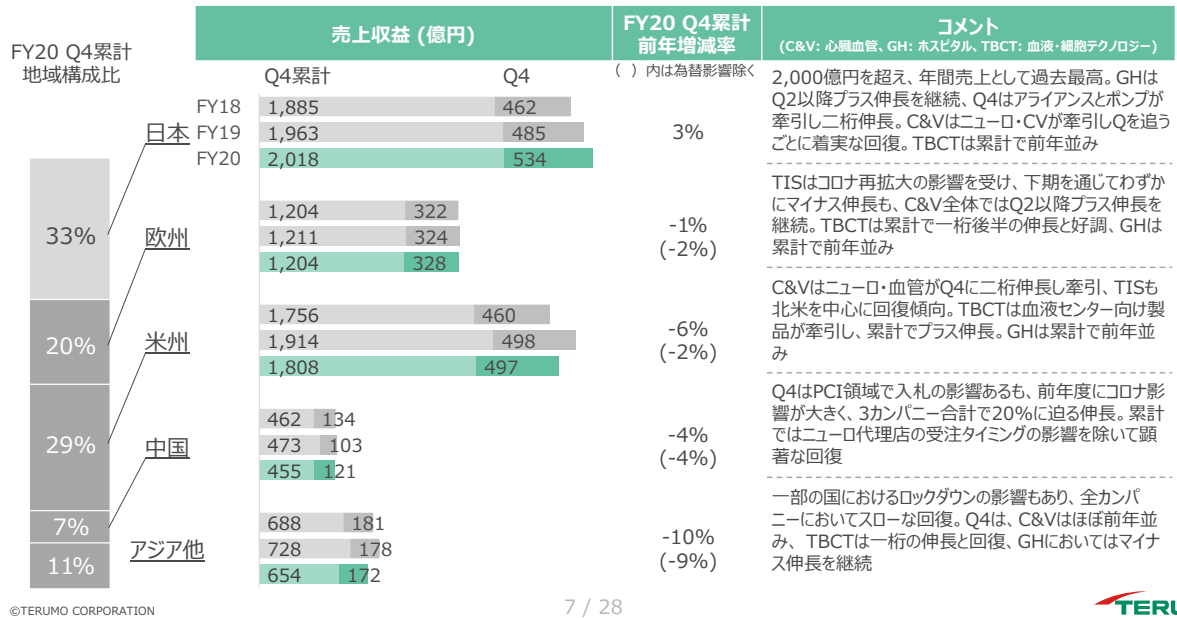
「売上総利益率効果」については、在庫適正化のための生産調整を始めており、その重石があることに加え、新型コロナウイルスの影響でフィリピン工場の操業度が低下したことも重なり、全体として7億円のマイナス要因となりました。

「価格」に関しては、中国においてPCI製品に対する入札後、新価格が適応された影響が大きく、薬価公定価の影響と合わせて26億円のマイナス要因となりました。

「一般管理費」と「研究開発費」に関しては、米国を中心に行動制限の緩和が見られ、概ね前年並みの費用執行となり、若干のプラス要因に留まりました。

「為替」は、先ほどの説明の通り、3月末の円安による棚卸資産未実現利益消去のマイナス影響が、フローへのプラス影響を上回り、11億円のマイナス要因となりました。

地域別売上収益



©TERUMO CORPORATION

7 / 28



地域別売上収益です。

日本では、心臓血管カンパニーがニューロやCVの牽引により、Qを追うごとに着実な回復を見せました。ホスピタルは新型コロナ感染対策や予防に対応した製品に加え、Q4にアライアンスや基盤医療器のポンプ等が加速した結果、Q2以降プラス伸長を継続しました。血液・細胞テクノロジーカンパニーは前年並みと、堅調を維持しています。地域全体としても前年度比3%とプラス伸長に転じ、額としては2,000億円を超え、過去最高となりました。

欧州では、新型コロナ再拡大の影響を受けたものの、心臓血管カンパニーはQ2以降プラス伸長を継続、他の2つのカンパニーは累計で一桁後半から二桁のプラス伸長となり、地域全体として概ね前年レベルまで戻りました。

米州は、心臓血管カンパニーにおいて、下期に入りニューロや血管事業が力強い牽引を見せたことに加え、TISも着実な回復を示し、一桁台の減収まで戻りました。ホスピタルは前年並みと安定、血液・細胞テクノロジーは血液センター向け製品が牽引しプラス伸長となりました。

中国は、Q4においてPCI関連製品への入札影響がありました。既にコロナの影響が出ていた前年同期比では20%に迫る伸長となりました。累計でも、ニューロにおける代理店からの受注タイミングの影響を除いたベースでは、プラス伸長を継続しており、全体として堅調に回復しています。

アジア他は、一部の国におけるロックダウンの影響を受けており、他地域と比較すると、

依然として回復がスローな状況です。それでもQ4だけで見れば、心臓血管は前年並みに、血液・細胞テクノロジーはプラス伸長と確実にモメンタムが上向いています。

心臓血管： 症例回復が進み、Q4でCV以外はプラス伸長に転じる。
累計でも血管はプラス伸長、TIS、ニューロのマイナス伸長は一桁台まで縮小

(億円)

	Q4累計			Q4			コメント	Q4累計 売上増減
売上 収益	() 内は為替影響除く						TIS : 製品群全般に需要減の影響も、Q2、Q3と一桁前半のマイナス、Q4はプラス伸長と回復が進む。症例数の回復は日米が早く欧州が遅め。中国は下期に入札の影響を受けるも、前年度Q4のコロナ影響が大きく、顕著な回復	-157
	3,285	3,506	3,285				ニューロ : 中国代理店の受注タイミングの問題は下期に正常化も、累計での影響が残る。Q2以降は脳動脈瘤治療における症例数の回復が進み、日米はFRED等の新製品が牽引し二桁伸長、欧州もプラス伸長を継続	-26
調整後 営業利益	809	869	744	875	871	901	CV : 欧米を中心に症例延期による需要減の影響を受けるも、日本においてはECMO等の装置売上によりQ4、累計ともに二桁伸長。中国もQ4に回復が加速し、一桁後半の伸長	-47
			-14% (-11%)	229	181	184	血管 : Q2以降はプラス伸長を継続、累計で+5%伸長と堅調。Q3までは地域ごとに症例延期の影響が残るも、新製品TREOが牽引し北米が好調。Q4は中国の回復もあり全地域でプラス伸長	+10
調整後 営業利益率	FY18	FY19	FY20	FY18	FY19	FY20	利益 : 累計では売上減による減益も、Q4においてはTIS製品に対する中国入札の影響や、在庫適正化に向けた生産調整による売上総利益へのマイナス影響を跳ね返してプラス伸長	
	25%	25%	23%	26%	21%	20%		

©TERUMO CORPORATION

8 / 28



心臓血管カンパニーです。

売上収益は、Q4のみでは4%のプラス伸長に転じ、通期では6%の減収と、Q2以降着実な回復が見られました。

TISはQ2以降、需要の戻りとともに着実な回復が見られました。直近のQ4では、中国における入札のマイナス影響がありながらも、プラス伸長に転じています。

ニューロは下期に入り、中国代理店の受注タイミングの影響が正常化し、Q3からプラス伸長に転じています。直近Q4も先進国を中心に加速しており、通期では新型コロナウイルスの影響が残ったものの、本来あるべき強い基調に戻りつつあります。

CVは、多くの病院リソースが必要になる外科手術向けの製品であり、症例延期の影響が依然色濃く残っている状態です。しかし、日本におけるECMO製品の売上増等、一部の製品や地域で牽引、プラス伸長が見られマイナス影響を緩和しています。

血管は、Q2以降プラス伸長を継続し、累計でも5%のプラス伸長となりました。北米に投入しました腹部大動脈瘤向けのステントグラフトTREOが牽引しています。

利益について、通期では売上収益の減少により減益となったものの、Q4では中国入札の影響や生産調整等の重石を跳ね返し、増益に転じました。

ホスピタル: アライアンスと感染対策製品が牽引。
各セグメントでも徐々に需要減からの回復が進む

(億円)

	Q4累計			Q4			コメント	Q4累計 売上増減
売上 収益	()内は為替影響除く						医療器	-14
	1,658	1,710	1,755				: 日本とアジアにおける診療制限のマイナス影響を、感染対策製品やポンプの増収で緩和。下期は国内で補正予算を背景にポンプが牽引し、プラス伸長を継続	
調整後 営業利益							医薬品	-6
			+3% (+3%)	399	432	465	: 輸液剤の需要減を、新製品を中心に疼痛緩和がカバー。コロナ禍でもPD（腹膜透析）は累計で4%伸長と堅調、癒着防止材は累計で二桁伸長を継続	
調整後 営業利益率							DM・ヘルスケア	+16
	268	252	257				: 累計では体温計等ヘルスケア製品の需要増。DMは受診抑制下でも下期はプラス伸長を継続。ヘルスケア製品は特需が一巡し、Q4は前年並み	
	FY18	FY19	FY20	FY18	FY19	FY20	アライアンス	+50
	16%	15%	15%	11%	13%	11%	: 日本・海外ともに二桁伸長を継続し、グローバル累計では20%を超える伸長。特にQ4は受注タイミングの影響で大きく伸長	
							利益	
							: Q4はアライアンスが牽引し売上は伸長も、コロナ影響によるフィリピン工場の操業度低下や、日本における販促費や開発費の計画通りの進捗により、わずかに減益。累計ではヘルスケア、アライアンスの好調な売上による製品ミックスの改善と費用コントロールによりプラス伸長	

©TERUMO CORPORATION

9 / 28



ホスピタルカンパニーです。

売上収益は、受診抑制による需要減が通期では残るものの、徐々に回復が見られました。そうした中、アライアンスや感染対策製品が強く牽引、マイナス影響を跳ね返し全体として3%のプラス伸長となりました。

利益においては、Q4においてフィリピン工場が新型コロナにより操業度が低下したことに加え、販促費や開発費の支出が進んだこともあり、わずかに減益となりましたが、通期ではアライアンスやヘルスケア製品等、高収益品の好調による製品ミックスの改善が効き、2%の増益となりました。

血液・細胞テクノロジー： 輸血需要の減少影響あるも、成分採血装置が牽引し、製品ミックス改善、費用コントロールにより増収増益を継続

(億円)

	Q4累計			Q4			コメント	Q4累計 売上増減
	() 内は為替影響除く							
売上 収益	1,050	1,072	1,095	284	284	285	血液センター : 全血採血製品は欧州、アジア、中南米等で輸血需要の減少を受けてマイナス伸長も、コロナ回復期血漿に向けた需要増に加え、成分採血装置の新ソフトウェアが牽引。Q4はコロナワクチンの普及に伴い回復期血漿の需要減速がみられるも成分採血製品は二桁伸長を継続	+30
			+2% (+4%)			+0%	アフレス治療 : 症例減の影響が残る。Q3はプラス伸長も、コロナ再拡大の影響を受け、Q4はわずかにマイナス伸長	-7
調整後 営業利益	157	151	191	48	46	47	細胞処理 : コロナ影響による導入遅延があるも、下期は二桁伸長し前年並みに押し戻す	+0
			+27% (+30%)			+0%	利益 : Q4はワクチン普及の進んだ北米を中心に、輸血需要の回復と回復期血漿の需要減速があり製品ミックスが平常化。販促費や開発費が想定通りに進捗する中、増益を確保。累計では、製品ミックスによる売上総利益増に加え、費用コントロールが寄与し大幅増益を達成	
調整後 営業利益率	15%	14%	17%	17%	16%	16%		

©TERUMO CORPORATION

10 / 28

TERUMO

血液・細胞テクノロジーカンパニーです。

売上収益は、新型コロナの治療に向けた回復期血漿の需要増に加え、成分採血装置の新ソフトウェアが通期で牽引し2%のプラス伸長となりました。直近のQ4は、ワクチンの普及に伴い回復期血漿の需要に減速が見られ、全体で前年並みとなりましたが、成分採血装置は二桁伸長を維持しました。

利益は、Q4においてワクチンの普及が進む中、全血採血は需要回復、逆に回復期血漿における成分採血装置の需要は減速したことで、製品ミックスが平常化。加えて販促費や開発費の進捗が進んだことにより、前年並みの水準となりました。

一方、通期で見ると、製品ミックスによる売上総利益増が大きく効いたことに加え、厳格な費用コントロールも寄与し、27%の増益となりました。

主なトピックス

全社

- 「コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー」に選定
- グループ全体のデジタルトランスフォーメーションを推進する「DX推進室」を新設



ePRISMが分析した情報を医師が確認する様子
(イメージ)

心臓血管

- 臨床意思決定支援ソフトウェア「ePRISM」を開発・販売する
Health Outcomes Sciences社の全資産を買収



薬剤投与用注射器
「FNシリンジ」

ホスピタル

- デッドボリュームを少なくした薬剤投与用注射器「FNシリンジ」の生産を開始
- Glooko社と糖尿病治療のデジタル化推進を目指した戦略的提携を締結
- 協和キリン株式会社と共同開発中の薬剤自動投与デバイスを用いた医薬品
「ジールスタ®」に関する国内臨床試験が完了



Glooko社のdiasend platform
(イメージ)

血液・細胞 テクノロジー

- CSL Plasma社と原料血漿採取における協業を開始

©TERUMO CORPORATION

11 / 28

TERUMO

Q4の主なトピックスです。

全社では、大変名誉なこと「コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー」に選出されました。

カンパニーについては、デジタルヘルスの技術を持つ企業の提携や買収のトピックスが並んでおります。

本社でもDX推進室を新設しましたが、グループ全体におけるデジタルトランスフォーメーションを加速させています。

ホスピタルでは、ワクチン普及の促進に貢献すべく、デッドボリュームを少なくしたシリンジの生産をQ4に開始しました。

血液・細胞テクノロジーでは、発表は4月ではありましたが、CSL社と原料血漿採取における協業をスタートしています。

21年度業績予想

コロナ影響からの需要回復に売上収益を連動させた業績予想

- ・レンジ上限： 上期からワクチンの普及、医療需要の回復が進み、下期には成長軌道へ回帰
- ・レンジ下限： 上期は20年度同様、世界的に感染者数が増減。下期より感染拡大がコントロールされ回復に向かう

(億円)

	FY20 実績	FY21 業績予想	増減率	為替除く 増減率
売上収益	6,138	6,700~6,800	9~11%	8~9%
営業利益	984	1,070~1,130	9~15%	4~11%
(営業利益率%)	16.0%	16.0~16.6%		
調整後営業利益	1,159	1,240~1,300	7~12%	3~8%
(調整後営業利益率%)	18.9%	18.5~19.1%		
当期利益	773	820~865	6~12%	
為替レート(USD/EUR)	106円/124円	107円/128円		

©TERUMO CORPORATION

12 / 28

TERUMO

21年度の業績予想です。

現在、新型コロナウイルスの第3波、第4波、また変異株が猛威を振るい始めている一方で、国や地域ごとにスピードは異なりますが、ワクチンの普及が進んでいます。

こうした業績予想が難しい状況を鑑み、新型コロナウイルス影響からの回復度合いに連動し、レンジを持たせた売上収益の予想をしています。

レンジ上限は、上期にワクチンが一定程度普及することにより、需要の回復が進み、下期には成長軌道に回帰しているシナリオです。

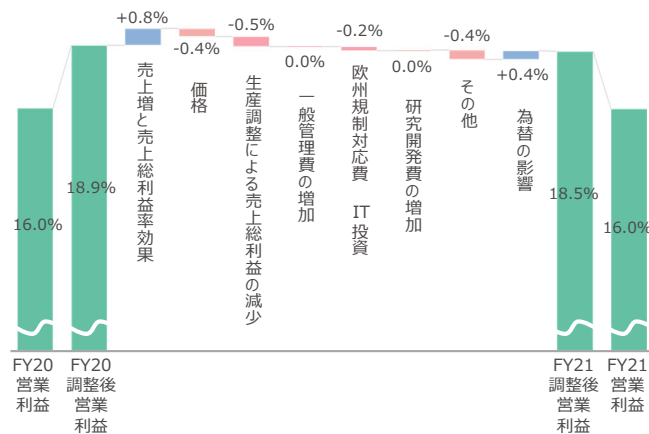
一方レンジ下限は、上期において20年度と同様に、感染の波が断続的に起こることによって感染者数が増減を繰り返し、下期によりやくワクチン普及の効果が表れて感染拡大がコントロールされるというシナリオです。

これら上限・下限のシナリオに基づき、売上収益の予想は6,700億円~6,800億円としました。これは前年比で9~11%の伸長となります。

なお、費用に関しては、20年度Q4の傾向から、需要レベルとは関係なく活動制限が一定程度緩和された状態が続き、上限・下限のシナリオ幅において、大きく変動しないものと見ています。

この前提に基づき、調整後営業利益は1,240億円~1,300億円で前年比7~12%増、営業利益は1,070億円~1,130億円、前年比9~15%増加と予想しています。

21年度業績予想 利益率増減要因 (売上収益6,700億円のシナリオベース)



- 売上増と売上総利益率効果：
心臓血管において米国を中心に売上回復。これに伴い製品ミックスが改善
- 価格：
20年度下期に開始された中国入札が年間を通して影響
- 生産調整：
心臓血管、特にTIS製品を中心に、在庫水準適正化に向けた生産稼働率の調整を年度を通じて実施
- 一般管理費の増加：
行動制限の緩和及び売上の回復、胸部ステントグラフト等の新製品発売に伴い増加を見込むも、売上伸長の水準内に止める
- その他：
原料血漿採取領域について、売上計上は22年度以降となるものの、一定の費用投下を見込む
- 為替の影響：
ユーロ、中国元、新興国通貨が利益に対してプラスに影響

©TERUMO CORPORATION

13 / 28

TERUMO

利益率の増減分析です。先ほどお見せしたレンジ下限での変動要因を説明します。まず、心臓血管において米国を中心に売上が回復することで、製品及びカンパニー間のミックスが改善して1%ポイント弱の押し上げ効果を見ています。

一方、価格はPCI関連製品における中国入札の影響が残り、0.4%ポイントの引き下げ要因。

そして今年度も引き続きTIS製品を中心に生産調整を行い、在庫水準の適正化を図る影響で0.5%ポイントの引き下げ要因になると見ています。

費用関連ですが、行動制限の緩和や新製品ローンチに伴う費用増等がありますが、売上伸長の範囲内でコントロールします。

その他の費用として、先月発表致しました原料血漿採取における協業に関して、売上は来年度以降になりますが、先行的な費用支出が今年度に見込まれ0.4%ポイントの引き下げ要因となります。

為替は、ユーロ、中国元、新興国通貨に対する円安傾向の予想のもと、0.4%ポイント程度の押し上げを見込んでいます。

21年度カンパニー別業績予想（売上収益6,700億円のシナリオベース）

		売上収益		コメント
		金額（億円）	前年増減率	
		（ ）内は為替影響除く		
心臓血管	FY19	3,506		TISの中国入札影響があるものの、米国を始めとする売上回復によりTIS、血管は二桁増収、ニューロは20%に迫る増収
	FY20	3,285	14%	
	FY21	3,735	(12%)	
ホスピタル		1,710		21年度はアライアンスやDM、疼痛緩和が牽引。ヘルスケア製品の特需は一巡も、医療器と医薬品において回転品の回復を見込む
		1,755	3%	
		1,815	(3%)	
血液・細胞テクノロジー		1,072		回復期血漿の需要減を、輸血需要の回復やアフェシス治療・細胞処理の拡大で吸収して増収
		1,095	5%	
		1,150	(3%)	

©TERUMO CORPORATION

14 / 28



カンパニー別の売上予想についても、レンジ下限をベースに説明します。

心臓血管については、PCI製品に向けた中国入札による価格下落の影響があるものの、米国を始めとする需要回復のもと、TIS、ニューロ、血管が二桁増収、中でもニューロには20%に迫る伸長を期待しており、全体として14%の増収を見込みます。ホスピタルは、アライアンスや疼痛緩和に加えDMによる牽引を期待しています。20年度に感染対策として増加したヘルスケア製品の需要は一巡すると思われそうですが、受診抑制等も徐々に和らいでくることで医療器や医薬品等の回転品の売上が回復すると見ており、全体で前年比3%の増収と予想しています。

血液・細胞テクノロジーは、ワクチンの普及に伴い回復期血漿の需要が減少する一方、輸血全般の需要が回復することに加え、アフェシス治療・細胞処理の需要ならびに売上拡大で吸収し、5%の増収を見込みます。

配当案

- 安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指す
- 20年度は年間29円（当初予想から1円増配）
- 21年度は年間30円とし増配維持

	FY20 実績	FY21 予想
当期利益（億円）	773	820～865
EPS（円）	102	108～114
配当案/株	29.0円 中間14.0 期末15.0	30.0円 中間15.0 期末15.0
配当性向	28.3%	26.2～27.7%

最後に20年度の配当ですが、Q3時点で新型コロナの影響が読み切れない中、19年度と同額の年間28円据え置きとしておりましたが、Q4での回復基調の状況から判断し、20年度配当案を1円の増配、年間で29円と致します。引き続き、これまでのポリシーである増配を堅持してまいります。

皆様、ご清聴ありがとうございました。

参考資料

20年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ
心臓	ステーラブルシース	日	済み
	PTCA/バルーン(Essen社製)	中	済み
イメージング	IVUSカテーテル	日	済み
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧	FY21
	末梢血管塞栓用プラグ	米	FY21
脳	血流改変ステント	日米	済み
	バルーン付きガイドカテーテル	欧	FY21
	頸動脈用ステント	日	済み
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日	済み
カーディオ バスキュラー	次世代人工肺	日	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日	済み
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル	済み

領域	製品	地域	ローンチ
血管	腹部ステントグラフト	米	済み
医療器	次期シリンジポンプ	日	済み
	次期針刺し防止機構付留置針	日	FY22以降
	Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜	済み
医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日	済み
DM・ ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日	FY21
	血糖測定システム	日	済み
	次期体温計	日	済み

21年度パイプライン製品

領域	製品	地域
心臓	次期薬剤溶出型ステント	日
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧
	末梢血管塞栓用コイル	日
	末梢血管塞栓用プラグ	米
脳	血流改変ステント	欧米
	バルーン付きガイドカテーテル	欧米
	コイルアシストステント	欧米
血管	胸部ステントグラフト	米
	オープンステントグラフト	米
	腹部ステントグラフト	日

領域	製品	地域
医療器	次期輸液ポンプ	日
	次期小型シリンジポンプ	日
	FNシリンジ（16mm針）	日
医薬品	フルマゼニル静注	日
	次期無菌接合装置	日
	ジェルクレア	日
DM・ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日
	パッチ式インスリンポンプ	欧
	100周年記念体温計	日
	非接触データ通信体温計	日
血液・細胞テクノロジー	血液自動製剤システム	グローバル
	付加価値サービス	グローバル

売上明細 (地域別・事業別)

2020年度 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for FY2020

(百万円 / millions of yen)

		FY2019							FY2020							増減比 % to total							
		日本 JPY	海外 Overseas	欧州 Europe	米州 American	中国 China	アジア他 Asia and others	合計 WW	日本 JPY	海外 Overseas	欧州 Europe	米州 American	中国 China	アジア他 Asia and others	合計 WW								
心臓血管 カンパニー	TTS	34,008	203,331	56,330	82,692	28,012	21,319	326,340	31,337	-1.0%	180,790	-6.4%	52,996	-6.0%	84,648	-6.6%	22,464	-11.4%	220,638	-6.6%	68.0%		
	ニューロバスキュラー	3,981	43,644	13,744	16,902	9,626	3,961	47,618	4,880	22.0%	40,136	-6.0%	13,817	0.5%	17,472	3.4%	4,988	-44.0%	3,837	-2.6%	45,016	-5.3%	7.3%
	カーディオバスキュラー	10,285	35,973	5,974	23,493	2,889	5,113	46,289	11,402	10.0%	30,180	-16.1%	5,239	-12.3%	18,920	-19.3%	1,310	8.7%	4,509	-11.8%	41,682	-10.1%	6.8%
	血管	2,447	17,676	10,163	5,365	1,018	1,123	20,334	2,587	-2.3%	18,735	6.0%	10,469	1.0%	5,928	10.7%	1,340	31.5%	987	-12.1%	21,322	4.9%	3.3%
Cardiac and Vascular Company		50,924	299,626	86,228	128,266	39,463	35,558	380,560	50,208	-1.4%	278,341	-7.1%	82,523	-4.3%	126,978	-8.7%	37,819	-6.2%	31,818	-10.5%	328,549	-6.3%	85.2%
ホスピタル カンパニー	医療器	51,181	26,281	2,506	7,156	1,411	13,306	77,602	52,978	8.3%	23,208	-12.0%	2,339	1.3%	6,593	-17.9%	1,202	-10.5%	12,813	-16.3%	76,186	-8.8%	12.4%
	医薬品	45,191	-	-	-	-	-	45,191	44,525	-1.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44,525	-1.3%	7.3%
	DM+ヘルスケア	21,552	3,006	819	23	947	1,214	24,659	23,319	8.2%	2,883	-4.1%	798	-2.5%	11	-53.5%	976	3.0%	1,096	-9.7%	26,202	6.7%	4.3%
	ホスピタルシステム小計	117,925	28,388	3,326	7,182	2,359	16,520	147,333	120,822	2.5%	26,092	-11.2%	3,338	6.4%	6,605	-6.0%	2,239	-51.7%	13,910	-15.0%	146,915	-8.2%	24.0%
アライアンス	14,954	8,895	3,992	1,882	216	702	23,660	18,216	22.2%	10,313	18.6%	6,903	13.2%	2,448	30.1%	183	57.6%	778	10.3%	28,630	21.1%	4.7%	
General Hospital Company		132,880	38,083	9,317	9,064	2,473	17,226	170,963	139,139	4.7%	36,406	-4.4%	10,241	9.9%	9,053	-9.1%	2,422	-2.1%	14,688	-14.7%	175,545	2.7%	20.7%
血液・細胞 テクノロジー カンパニー	血液センター	11,787	66,436	19,717	21,424	4,710	16,382	78,233	11,540	-1.0%	69,682	4.0%	21,376	8.4%	27,271	7.3%	5,242	11.2%	15,791	-4.8%	81,231	3.8%	13.2%
	アブレス治療機	463	20,726	3,124	12,023	314	3,033	21,189	453	-2.2%	20,655	-3.2%	5,501	3.0%	11,239	-6.5%	690	34.3%	2,823	-6.9%	20,608	-3.2%	3.3%
	細胞治療	58	7,685	700	6,509	89	382	7,743	151	161.4%	7,599	-1.1%	945	33.0%	6,233	-3.9%	149	68.5%	248	-33.4%	7,750	0.1%	1.3%
Blood and Cell Technologies Company		12,309	94,847	25,572	43,958	5,315	20,001	107,166	12,164	-1.3%	97,336	2.6%	27,624	8.0%	44,765	1.8%	6,082	14.4%	18,864	-5.7%	109,491	2.2%	17.0%
その他	Others	216	-	-	-	-	-	216	256	13.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	256	13.3%	0.0%	
合計 Total		196,339	432,657	221,128	291,380	47,254	72,785	628,897	201,758	2.0%	412,084	-4.7%	226,289	-10.6%	286,798	-13.5%	45,525	-13.7%	65,371	-10.2%	613,842	-2.4%	100.0%
売上比率 % to Total		31.2%	68.8%	29.3%	30.4%	7.5%	11.6%	100.0%	32.9%	67.1%	19.6%	29.5%	7.4%	10.6%	100.0%								

(期中平均為替レート)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥108.70

(EUR)=¥120.81

(USD)=¥106.10

(EUR)=¥123.76

* 本報及び「中国」の売上を報告しているため、「アジア他」が「中国」の売上を除いておられます。

* Sales in China is not included in "Asia and others" from this responsible segment.

販管費

(億円)

	FY19 Q4累計	FY20 Q4累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY19 Q4	FY20 Q4	増減	増減率
人件費	898	928	29	3%	4%	232	240	8	3%
販促費	197	128	-68	-35%	-34%	51	43	-8	-16%
物流費	139	144	5	4%	4%	35	37	2	6%
償却費	189	191	2	1%	2%	50	49	-1	-2%
その他	423	404	-19	-4%	-3%	109	119	10	10%
一般管理費計	1,845	1,795	-51	-3%	-2%	477	488	11	2%
(一般管理費率%)	(29.3%)	(29.2%)				(30.1%)	(29.5%)		
研究開発費	506	491	-15	-3%	-2%	136	132	-4	-3%
(研究開発費率%)	(8.0%)	(8.0%)				(8.6%)	(8.0%)		
販管費合計	2,351	2,286	-66	-3%	-2%	613	620	7	1%
(販管費率%)	(37.4%)	(37.2%)				(38.6%)	(37.5%)		

四半期の動き

(億円)

	FY19 Q4 (1-3月)	FY20 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	
売上収益	1,588	1,313	1,520	1,653	1,652	
売上総利益	853 (53.7%)	689 (52.5%)	816 (53.7%)	908 (54.9%)	854 (51.7%)	
一般管理費	477 (30.1%)	401 (30.5%)	458 (30.2%)	447 (27.1%)	488 (29.5%)	
研究開発費	136 (8.6%)	112 (8.5%)	119 (7.8%)	128 (7.7%)	132 (8.0%)	
その他収益費用	4	5	-1	2	-2	
営業利益	244 (15.3%)	181 (13.8%)	238 (15.6%)	334 (20.2%)	231 (14.0%)	
調整後営業利益	266 (16.7%)	217 (16.5%)	296 (19.5%)	372 (22.5%)	274 (16.6%)	
四半期	USD	109円	108円	106円	105円	106円
平均レート	EUR	120円	119円	124円	125円	128円

©TERUMO CORPORATION

21 / 28

 TERUMO

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY19 Q4累計	FY20 Q4累計	FY19 Q4	FY20 Q4
営業利益	1,106	984	244	231
調整① 買収無形資産の償却費	157	146	38	38
調整② 一時的な損益	-13	29	-16	5
調整後営業利益	1,250	1,159	266	274

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY20 Q4累計	FY20 Q4
事業再編費用	7	3
その他	22	2

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

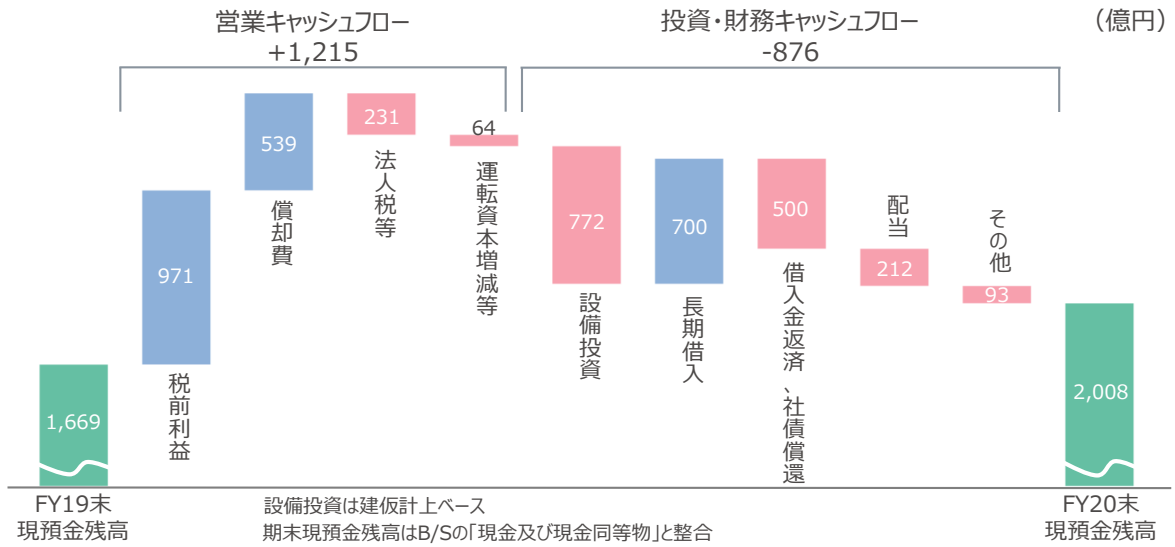
	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21予想
設備投資	436	608	895	772	850
償却費	420	440	477	484	530
買収無形償却費	145	146	157	150	155
それ以外	276	294	320	334	375

設備投資は建設仮勘定計上ベース

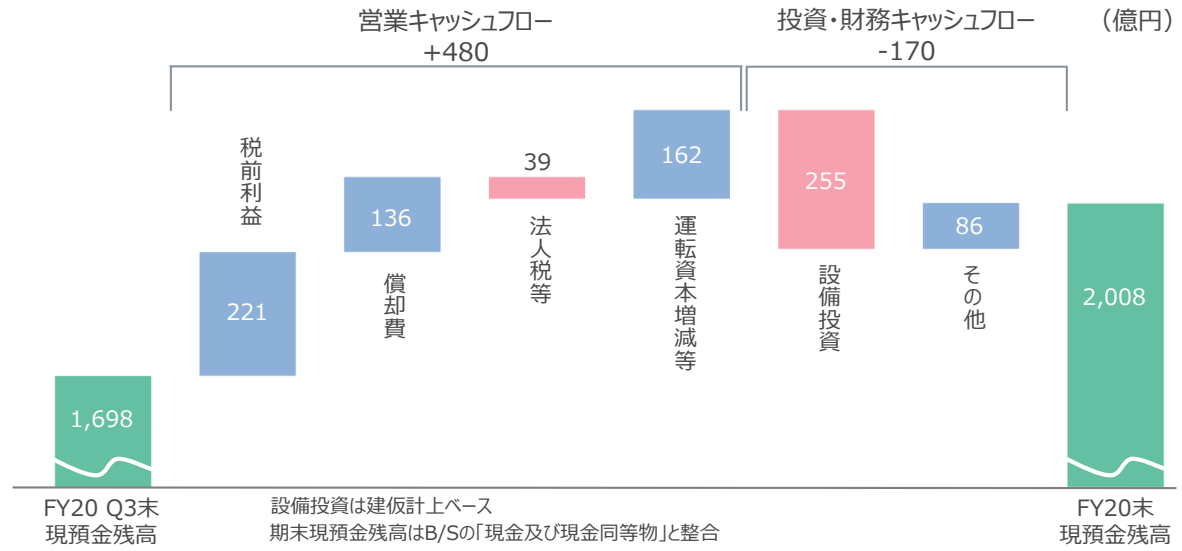
- 20年度実績（772億円）：主にTIS、ニューロ、アライアンス、血液・細胞テクノロジー等の増産設備、生産スペース、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続
- 21年度予想（850億円）：上記の他、原料血漿採取関連、ワクチン用シリンジ設備等、21年度業績も踏まえながら適切に実行

	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21予想
研究開発費	413	477	506	491	529

キャッシュフロー（Q4累計）

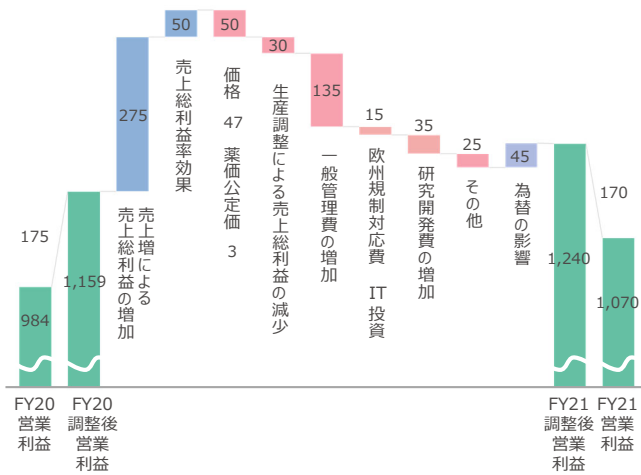


キャッシュフロー（Q4）



21年度業績予想 利益増減要因 (売上収益6,700億円のシナリオベース)

(億円)



- 売上増と売上総利益率効果：
心臓血管において米国を中心に売上回復。これに伴い製品ミックスが改善
- 価格：
20年度下期に開始された中国入札が年間を通して影響
- 生産調整：
心臓血管、特にTIS製品を中心に、在庫水準適正化に向けた生産稼働率の調整を年度を通じて実施
- 一般管理費の増加：
行動制限の緩和及び売上の回復、胸部ステントグラフト等の新製品発売に伴い増加を見込むも、売上伸長の水準内に止める
- その他：
原料血漿採取領域について、売上計上は22年度以降となるものの、一定の費用投下を見込む
- 為替の影響：
ユーロ、中国元、新興国通貨が利益に対してプラスに影響

20年度 為替影響の内訳（フロー・ストック）

■ 対19年度 為替影響 ▲35億円：Q3累計▲24億円から、Q4に▲11億円拡大

■ フロー +8億円：ユーロ高・中国元高によるプラスと、新興国通貨(ブラジル等)安によるマイナス

レート (円)	FY19 Q4期中平均	FY20 Q4期中平均	差異
EUR	120	128	8
中国元	15.6	16.4	1

■ ストック ▲19億円：為替変動による棚卸資産未実現利益消去への影響

- 20年度3月末日レートが急激に円安へ移行したことによりマイナス影響
- 19年度3月末日レートは若干円高に振れたため今年度との差異拡大

レート (円)	FY19 Q4期中平均	FY19 3月末	差異		レート (円)	FY20 Q4期中平均	FY20 3月末	差異
USD	108.9	108.8	-0	▶	USD	106	111	5
EUR	120.1	119.6	-0		EUR	128	130	2

為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	中国元
売上収益	17	8	27
調整後営業利益	0	5	15

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	中国元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	23	36



Stride Ahead
100th